

# 都城市立明道小学校 令和3年度 学校評価報告書

## 1 学校経営ビジョン

教育目標「豊かな心をもち、自ら学び、心身ともにたくましい児童の育成～「きらきら」「ぐんぐん」「ぽかぽか」に満ちた学校づくり～」の達成のために、都城市的中心校であり歴史と伝統のある学校として、職員が「チーム明道」として団結し、「よき伝統の継承」を基調としつつ、「夢、実践、改革」・「求同と求異の達成」スピリットをスローガンとし、「命と心の教育充実・学力向上・特別支援教育充実」を最重要課題と捉え、ATM（明るく、楽しく、みんな仲良く）の心に努め、地域住民と共に「地域から愛される学校づくり」を推進します。

## 2 学校自己評価及び学校関係者評価の結果

4段階評価 4：期待以上 3：ほぼ期待どおり 2：やや期待を下回る 1：改善を要する

項目	評価内容・評価規準	学校の自己評価（職員、児童、保護者）		学校関係者評価（学校運営協議会委員）	
		平均	分析・考察	平均	本年度の学校評価に対する意見等
学力の向上	1 国語、算数の単元テストにおいて、学級平均点が「担任の期待平均点」を「1点以上、上回る」	3.5	1 「期待平均点1点以上」はほぼ達成できた。今後とも下位層児童の学力を高めていく必要がある。 2 先生方が日々チェックポイントを意識した授業を行い、中学校区授業研究会でも成果を発表することができた。また、児童87.4%が「よく分かる」94.4%が「分かりやすい」と答えている。 3 2学期末現在、一人あたりの図書貸出冊数は58冊であるが、年度末には60冊以上になる。読書イベントを行い、いろいろな分野の図書に触れることができた。	3.4	○ 学力向上の成果が出ている。 ○ 先生方が子どもたちと一緒に楽しんで授業を進めている様子がうかがえる。また、日々の授業が分かりやすく児童も満足していると思う。 ○ 下位層児童の学力を高めるためには、学校・教職員の力だけでは難しい。タブレットも必要だが、何より市の雇用による人材確保も推進してほしい。 ○ 活字離れが進んでいるので、貸出冊数の目標だと達成困難の印象がある。ネット環境での読書もカウントしてはどうか。 ○ 地区社協も図書代に協力しており、読書活動はもう少し頑張ってほしい。 ○ 読書イベントは読書を好きになる効果があると思う。いろいろな行事が休止・縮小される中で、校内ができるイベントは大切であり継続してほしい。
	2 県の示す「授業のチェックポイント」を全職員が100%意識して、日々の授業改善に臨み、「学習内容がよく分かる」・「先生は分かりやすく教えてくださる」と80%以上の児童が答える。	3.7	4 職員の協力のもと、小中一貫教育授業研究会をはじめ主題研究がスムーズに進められた。ICTを活用した授業の進め方を深めることができた。	3.5	○ ICT教育は大変だろうが、これから時代には必要なことである。継続して取り組んでほしい。
	3 読書活動の推進に努め、各学年が昨年の貸出冊数を超えて、一人あたりの貸出冊数を60冊以上とする。	2.5	5 タブレット活用に関しては手探りではあったが、ミニ講座を開き実践的な研究を進めてきた。	3.3	○ 早くからタブレット活用の普及に取り組んでいてよかった。授業の進め方にも影響するだろうし、かつ多くのことが学べると思う。
	4 コロナ禍であっても、説明文の読み解き指導法の研究、と並行した「google education」の「効率的な研修に努め、研修が「ためになった」という有用感を90%とする。	4.0		3.9	
	5 google educationの活用普及に努め、子どもの「タブレットが学習に役に立っている」を90%とする。	3.6		3.4	
豊かな心の育成	1 「友と仲良く」90%、「進んでいいさつ」85%、「言葉遣い」80%、「進んで仕事」85%、「きまりを守る」90%とする。	3.8	1 教職員、児童、保護者とも目標を上回ることができた。運営委員会の児童による放送での呼びかけも行った。	3.4	○ 全ての項目において、保護者の評価が高いのは、学校の取組が確実に伝わっている証拠だと思う。 ○ 子どもの様子を見るのは登校時しかないが、進んでいいさつすることは少ない。こちらからすると返事のいいさつはある。集合場所では、上級生が1年生の面倒をよく見ている。
	2 「1分前着座、チャイム黙想、廊下歩行、トイレスリッパ」の職員評価を90%とする。	3.6	2 1分前に予冷を鳴らして、着座とチャイム黙想ができるようにした。廊下歩行とトイレスリッパは現場指導を心がけ、よくなってきた。	3.4	○ 登校の様子から「学校が楽しい」というのが伝わってくる。下校時に子どもに会うと、さらに明るく元気になっている。学校でエネルギーを充電しているようだ。
	3 児童「学校が楽しい」を、90%以上とする。トラブルには、担当・管理職が「クイック・レスポンス（今日中の対応・解決・努力）」で対応し、職員満足度90%とする。	3.6	3 トラブルがあると、関係者が連携して素早い対応指導にあたり、保護者への連絡や警察への相談等を行った。また、弁護士出前授業やケータイ教室等外部講師による学習を行った。	3.5	○ トイレのスリッパはいつ行ってもきれいに並べてある。 ○ 電子メディアとの適切なかかわり方、対応スキルを習得させることは大きな課題である。今後も保護者、関係機関と連携した取組の充実を願っている。
	4 安全計画・アクションプランによる避難訓練・安全指導を計画的に100%実施し、毎日の登下校指導における見守り・呼びかけを繰り返し行い、「横断歩道渡り方・自転車乗り方」の安全意識を95%とする。	3.9	4 避難訓練は密を避けながら避難経路を確認することができた。下校は職員が分散して見守りと声かけを毎日行い、安全な下校を呼びかけた。	3.8	○ 狹い橋の上で、横並びの下校が見受けられ、車が注意を払っている。 ○ コロナ禍で、楽しいと思う子どももいる反面、友達を遊べない、しゃべれないことにより学校が樂しくないという声もある。マスクをしてのコミュニケーションはとても難しいと思う。

健 康 ・ 安 全  体 力 の 向 上	1 体力テストの結果を踏まえ、A判定児童を10%以上とする。また、D・E判定児童の割合を30%以下に減らす。	2. 6	1 コロナ禍であっても状況に応じて体育学習を行った。しかし、激しい運動や昼休み時間の外遊びも制限され体力の向上が望めなかった。 2 目標は達成しているが、「早寝・早起き・朝ごはん」については、家庭の協力が必要である。夏休みの実施も考えたい。「手洗い・手指消毒」は、100%を達成できなかつたが、定着しつつある。 3 「弁当の日」は児童がよく取り組んでいる。保護者から時間的に余裕のある夏休みの実施の要望がある。 4 校内放送や掲示を工夫し、児童が興味・関心をもって聞いたり見たりしていた。栄養教諭の存在が大きい。	2. 6 3. 2 3. 5 3. 6	○ コロナ禍は子どもの体力向上に影響はあったと思う。早く収束することが望まれる。休み時間に元気に走り回る姿を見たい。 ○ ロコモ予防のためにも身体を動かす機会を多く設定することが、子どもの体力に関わる大きな課題である。体育の授業での運動量確保など地道な取組をお願いする。 ○ スポーツ少年団の活動も制限される中、外遊びの子どもたちを見ることが少ない。体力の低下が不安視される。先日、親子で縄跳びをしている姿を見かけた。休日は外の運動で、体力増強と親子の絆を深めてほしい。 ○ コロナ禍で外遊びがあまりできなかつたと思う。 ○ 「早寝・早起き・朝ごはん」は、家庭での指導が大切だと思う。 ○ 栄養教諭が掲示でとても活躍しており、大切な役割を果たしていると思う。
	2 「早寝・早起き・朝ごはん」の定着を80%以上、「手洗い・手指消毒」の定着を100%とする。	3. 6			
	3 食に関する意識・知識向上のために、年2回の「弁当の日」を全家庭で100%実施させ、保護者の「家庭での団らんや会話を大切にする」を90%とする。	3. 6			
	4 健康意識、食育向上のために、保健・食育コーナー設営充実に努め、児童の「設営が役に立った」を90%とする。	3. 7			
地 域 に 開 か れ た 学 校 づ く り	1 「安心安全メール」の多発に努め、きめ細かに情報発信し、保護者の満足度を90%とする。	3. 9	1 全保護者が登録しており、必要な情報をいち早く発信している。月に40～50件の情報発信になる。	3. 8	○ 「安心安全メール」による情報提供が、保護者との信頼関係を高めることにつながるので、今後の取組に期待している。
	2 HPの改善・情報発信に努め、コロナ禍における情報不足の補いとして、アクセス数を10000以上とする。	3. 8	2 HPは夏休みからの再開だったが、いつでも数名のアクセスがあり、好評である。夏から7万5千件のアクセスがある。保護者から楽しみという声も聞く。	4. 0	○ 保護者に情報が早く発信できてよかったです。 ○ 何はともあれ、コロナが収束することが大事である。御苦労も多いと思うが、お願いしたい。 ○ 弁護士などの外部講師出前授業、すばらしい。 ○ 地域・学校を支える人材育成を目指している南九州大学の学生をボランティアとして御活用ください。その組織づくりを教育委員会と今後、検討できるとありがたい。
	3 ボランティア（「見守りたい、読み聞かせ、クラブ指導（お茶）、南九州大学生、主任児童委員、民生・児童委員、他G Tの活躍の場を多数・複数設定し、「社会に開かれた教育課程」を構築する。延G T活用数を100名以上とする。	3. 4	3 ボランティアは延べ2400名の活用ができ、目標を大きく上回ることができた。コロナ禍で中止した計画もあったので、次年度は更にボランティアの活用を図りたい。	3. 3	○ 土曜学習もコロナ禍で休みが多かった。 ○ 社会に開かれた学校の1つとして「パブリックビュー授業参観」は、今までとは違った角度から子どもたち、各クラスの様子、担任を知ることができた。授業に取り組む一人一人の様子が真正面から見ることができ、クラスの特徴の発信がより身近に感じられた。視聴者としては見ごたえのある授業参観だった。これから授業参観に一石を投じたのではないか。当日、見られなくても録画で放映してもらいたい。
	4 管理職が、学校運営協議会、自治公民館長、民生・児童委員、見守り隊等のボランティア、まち協、祭り等の地域公民館活動等との連携回数を昨年度より密にし、連携を深める。可能な限り、懇親会等の企画・参加に努め、連携深化を図る。	3. 6	4 コロナ禍により、地区行事や懇親会等も計画できなかつたため、ほとんど交流できていない。5月に行った「出会いの会」は好評であった。	3. 2	○ 「出会いの会」を企画していただいたことはよかったです。